ISSN 0288－4437

所報

INSTITUTE OF BUSINESS RESEARCH
COLLEGE OF ECONOMICS
NIHON UNIVERSITY

No. 65

展望

世界同時不況から在庫調整の進捗などにより景気の下げ止まりが言われ始めているが，グローバル社会の傷跡は大きく，就職活動は厳しい情勢になっている．また，ECO な車の販売急増など新しい需要創造による構造転換が進展している．

こうした状況にあって，当研究所は我国の産業経営の実態把握，そして世界の中で日本産業が今後どのような方向性を持つことになるかといったことについて調査・研究に努め，2009 年度は「現代企業経営の課題」を共通テーマに，公開月例研究会を開催した．この所報では以下の四つを取り上げる．

第一報告は，有限会社シー・エンタプライズ代表取締役　浅海茂氏の「中央アジアの物流と経済協力―カザフスタン，ウズベキスタンを中心として―」である．浅海氏はカザフスタン，ウズベキスタン，トルクメニスタン，タジキスタン，キルギスタンといった中央アジア 5 ヵ国の実際の物流 ODA 活動の解説の中からグローバリゼーションの時代では，世界的な地理感覚が必要で，さらにビジネスとして進めていくためには少なくとも 1 ヵ国語は身につける必要があることを強調された．

第二報告は，ものづくり S.R.O. 代表（在チェコ共和国）安東和民氏の「日本的経営生産方式－中東欧への適応可能性－」である．安東氏は鉄のカーテン崩壊後のチェコへの日本企業進出の実際の中で，日本式経営の優位性を詳しく述べている．

第三報告は，日本テレビ放送網株式会社 報道局経済部デスク大野伸氏の「テレビの経済報道はどう深化しているのか」である．大野氏は民間放送における経済ニュースの変遷の実際の中で，テレビの組織と仕事を分解して紹介し，新聞記事を読むような時代から分かりやすいニュースの時代となり，進化と深化が起こっていると解説している．

最後の第四報告は，(株)わらび座取締役劇団代表 是永幹夫氏の「文化事業複合体としてのたざわこ芸術村・劇団わらび座―地域発信・連携型の創造と展開―」である．是永氏は共生と協同をキーワードにユニークな活動をしている株式会社わらび座の組織構成，たざわこ芸術村というアートビレッジの事業経営の実態やわらび座修学旅行の特徴ある活動を解説している．

グローバリゼーションの時代のロジスティクスと日本的経営生産方式を持った企業進出，テレビ報道を中心としたマスコミュニケーションの進化の話，さらに劇団という文化活動を中心にした国内地方活性化の実例を分析することで，現代企業経営の課題の一面を垣間見る機会となった公開月例研究会ではなかったかと思慮する次第である．

（産業経営研究所　大場　允晶）

日本大学経済学部産業経営研究所　2009. 10